

2015年度 第2回 番組審議会 議事録

I. 開催概要

2015年9月10日(木) 15時30分～16時10分 キッズステーション本社会議室

II. 出席者

1. 審議委員 : 7名

鵜沢由美子 (明星大学 人文学科 人間社会学科 准教授)
蛭原英里 (チャイルド・ボディ・セラピスト)
北風祐子 (株式会社電通 マーケティングソリューション局 部長)
菅谷 実 (慶應義塾大学名誉教授)
高芝利仁 (弁護士)
田口成光 (脚本家・放送作家)
大地丙太郎 (アニメ監督)

[50音順;敬称略]

2. 事業者側 : 6名

[経営] 宮内康行(代表取締役社長)
[制作] 押田聖弘(編成部長)、生駒裕之(編成部長代理)、森岡昌弘(編成部員)
[事務局] 飯野博之(経営企画室長兼広報室長)、沼生祐介(広報室員)

III. 議事内容

1. 社長挨拶 株式会社キッズステーション 代表取締役社長 宮内康行

本日は足元の悪い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。今回の第2回番組審議会でも皆様より貴重なご助言がいただければと思います。経営からは人員変更をご案内します。経営執行を行っていた北折尚志が今週月曜日に三井物産に帰任し、後任として山中崇之が選任されています。現在海外出張の為不在ですが、次回ご挨拶をさせていただこうと考えています。よろしくお願ひ致します。

2. 番組審議 司会進行: 北風委員長

1) 対象番組: 「ブーブーボーイ」

① 番組説明

- タイトル : 「ブーブーボーイ」に関する資料を事前配布
- 放送日時: 初回2015年7月4日(土)、午前11時25分～2話ずつ放送
再放送 毎週土曜日同時刻
- 主要対象: 未就学児童、親
- 放送尺 : 2分(HD)
- 作品紹介<概要>

『ブーブーボーイ』は、キャラクター開発で定評のあるDLE、幼児向け雑誌で確固たる地位を築いている小学館、そして、子ども向けCS放送のトップブランド・キッズステーションがタッグを組んで共同開発した、お子さんはもちろん、お父さん、お母さんも一緒に楽しめる楽しいコンテンツです。『秘密結社鷹の爪』『パンパカパンツ』などFlashを用いた柔軟なアニメーション制作を武器にキャラクタービジネスを展開、数々の企業とのタイアップやデジタル

コンテンツ化など実績多数のDLEがキャラクター開発を担当、合計発行部数（月間）約60万部を超える小学館の幼児雑誌3誌『ベビーブック』『めばえ』『幼稚園』を中心とした誌面連載、国内CSチャンネルではトップクラスのカバレッジである可視聴世帯数817万世帯を誇るキッズステーションでのアニメ放送と、3社の得意分野を活かし、クロスメディア展開していきます。

▼大好きなくるまと一緒に遊べる友達に！ 運転手は人気キャラクター！？

子どもたちが大好きなくるまが、お喋りができて一緒に遊べる友達になったら……という発想で『ブーブーボーイ』は誕生。アニメや誌面で、主人公・ノルオが相棒のブーブーと一緒に遊びながら、子どもたちの疑問や悩みを解決していきます。

▼くるまと運転手 魅力的なキャラクターたち

『ブーブーボーイ』では、ノルオとブーブーの他にも魅力的なキャラクターが多数登場。重機のジューキイとジュンなど、車と運転手がコンビになっているのも『ブーブーボーイ』のキャラクターの特徴です。

②合評： 委：番組審議委員／局：キッズステーション

局： 本番組は、1話2分合計26話の作品で、人気作品を数多く制作しているDLE（ディーエルイー）社と小学館の児童局と弊社の共同で出資している。小学館では「ベビーブック」、「めばえ」、「幼稚園」という未就学児童ターゲットの雑誌媒体と弊社の放送媒体連動にて企画が進行している。内容としては、未就学児童が大好きな乗り物と対象年齢の主人公ノルオと仲間たちのお話し。子どもだけでなく親御さんも楽しめるように制作されている。

小学館の幼児誌が上記3誌で60万部発行され、1歳から6歳までをターゲットとしており、キッズステーションとも親和性が高いので共同の取り組みとなった。

前回ご審議いただいた「ハピクラ」のコンテンツ展開を「めばえ」でも行っており、アンケートでの番組認知度も上がってきており、また、キッズステーションの認知度が高いということもあり、「ブーブーボーイ」の番組を立ち上げるならキッズステーションありきで1年前から企画の相談があり、ここまで辿り着くことができた。

先月発売の「めばえ増刊号」に「ブーブーボーイ」の映像を入れており、「アンパンマン」をはじめ合計19作品の内、総合6位の人気を獲得し、出だしはまずまずといったところ。雑誌連載は今期末まで決まっている。

もともとは3社で始めた企画だが、途中からエイベックス社が加わり現状4社となり、同社は配信の役割を担っている。ライセンス販売は小学館集英社プロダクション社がグッズ等の営業を行っており、年末における絵本等の発売が予定している。

委： どんなグッズですか？

局： 玩具をはじめ様々なジャンルで営業をかけている。

- 委： 最初見た印象は色がきれい。2回見たが1回目はわかりずらかった。変身して成功するケースと失敗するケースとがあり、短い時間で楽しめた。
尺は何で3分でなくて2分なのか？
- 局： ショートのアニメでは3分30秒というものが多いが、未就学児童が飽きずに端的に内容を表現できるよう更に短くした。2話並べると5分枠に入り、2話分楽しんでもらえるようにした。
子どもだけではなく、親御さんにも楽しんでいただけるよう意識してシナリオを作成した。変身シーンは必ず入れて、擬音で子どもに覚えてもらえるようにした。
また、8話まで完成したところで、小学館集英社プロダクションが運営している保育園に映像を持ち込んで、1歳から6歳の反応を見たところ、変身シーンとブービー言っているところは喜んでいるなど子どもたちの反応は面白かった。次のシナリオに反映させていきたい。
- 委： 家族と見たところ、他のものに手助けしてもらおうという点で「ドラえもん」に似ているねという反応があった。子どもが何かをやりとげるときに手助けがあるというのは子どもにとって大変大事なストーリーなのではと思う。クルマと一緒に達成したり、できなかつたりというのは子どもに受け入れられるのではと感じた。
他のキャラクターは変身しないのか？
- 局： 後半では他も変身する。全部が一度に変身し出すと子どもたちが覚えられないので、最初は主人公だけとした。逆に他のキャラクターの認知度が薄まるので、後半では他のキャラクターを強化しようということになっている。
- 委： 男の子はクルマそのものが好きで、女の子はクルマに乗せる小さな人形でストーリーをつくって遊べるから、クルマと子どもが絡むストーリー展開は男女に受け入れられるのではと思う。また、女の子のキャラクターが活発でいいことだと思う。
- 委： 最初に見たときに、色合いがかわいいと思い、また主人公のノルオくんが弱かつたりドジなところがあり、クラスメートにいそうな憎めないキャラクターである。
友達であるクルマと協力すれば何かをやりとげられるというのは素晴らしいことであるし、変身の際の掛け声は実際に友達同士で遊べそうなので良いと思う。
変身シーンでクルマの名前がテロップでできれば、もっと覚えやすく良いかなと思う。
展開が早く、見るたびに面白くいいなと感じた。
- 委： 端的に楽しませてもらった。キャラクターの中でおそ松くんのイヤミに似たキャラクターがいたが、これは完全に別のキャラクターなのか？ 2話でアリバイがあるなの部分は大人が楽しめる要素か？ 変身する前にハンドルを外すが、変身のタイミングをわかりやすく教えるというものか？ 最後に、新しい道に入ったら怖かったということは何を意味しているのか？

局： いやみなキャラクターはいるが全く別物で、クルマのデザインディティールとして大丈夫かどうか事前に監修した。アリバイの部分は大人向け。ハンドルに関してはダンスの一環として楽しんでもらえればと。最後の、知らない道に行くというのは台本上一番変化を持たせた部分である。この道行ったら失敗するかもしれない、でもどうかなという誰もが思う部分を、「行ってみたらこうだった。」という好奇心と結果怖かったという演出をやり、他の話数とは流れを変えてみたかった。保育園でのこの話数は結構反応が良かった。

委： 大人向けのテイストが少し入っているというのは納得できる。言葉使いとして「男の子ってこれだから」とか「想像以上に一人乗りでした」などは大人のセリフかなと。6話の石にあたって怪我するシーンだが、石にあたって怪我する描写が抜けているので絵だけでもある方が良い。また、スピード競争で速いクルマと競争していきなり長くなった車体がゴールになだれ込んでくるというのは少し納得がいかないと感じた。

局： スピード競争では子どもたちの反応が全くなかった。台本上は面白いねということであったが、絵にすると結果わかりずらくなった。車体が視覚的に伸びていけば分かりやすいが、尺が短い中でできなかったことと、説明不足の表現はダメだなと反省もした。本で見ると面白いが。

委： 未就学児童向けの作品では子どもたちにまずは受けていけばいいのではないかと思う。作品を見ると大人の解釈として理解できるが、やはり物足りない部分がある。物足りない部分は何かを考えると、それは説明不足や引っかかりがないことかもしれない。テンポは良いけどリズムがないのかもしれない。どんなに短くても2分あれば最後にクライマックスを持ってこれるし、それに向かったの1分30秒があっても良く、それがリズムであるような気がする。皆さんの話を聞いていて、リズムがないのではないかと感じた。

局： おっしゃる通り。見せ場は変身シーンであったり、オープニングであったりもするが、手さぐりで始めた前半部分では短い尺の中に全てを詰め込みすぎて、リズムがないと思う。簡潔であるが、そこにメリハリとリズムがあるように今後は持っていきたい。

委： 丁寧な作品であると思うので、ずぼらなところや視聴者の期待を裏切ってやろうというところがあっても良いのかもしれない。

委： 変身シーンはユニークで印象的であると思う。新しい知らない道に入ったら怖かったという内容はもっとショッキングでも良かったのではないかな。何か凄いものを見つけしてしまうとか。小さい子なりに理解できる部分はあると思うので、期待を裏切らないとか、逆に期待を裏切っても良いのではないかと思う。そのシーンの後に夜道は一人で歩くななど「教訓の言葉」がでてきても面白いと思う。そうすればお母さんこれ何？ということになるだろう。

局： 正直、表現方法や演出は都度探り合いであった。幼児誌連動であり、それでも冒険をした方である。最終判断は都度合議で決めるようにしている。

3.報告事項

- ・ 第3回番組審議会開催日 : 11月16日(月) 15:30～

以上